

北見地区消防組合

平成27年救急統計



目 次

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）	・・・ P1～2
2、地区別救急隊出動件数	・・・ P3～4
3、救急搬送の状況（活動時間の推移）	・・・ P4
4、傷病者年齢区分別搬送人員状況	・・・ P5～6
5、傷病者程度別搬送人員状況	・・・ P7
6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況	・・・ P8
7、急病に係る疾病分類項目別重症割合	・・・ P8
8、管外搬送状況	・・・ P9
9、病院問合せ回数、収容拒否状況	・・・ P10
10、心肺停止患者搬送人員、社会復帰状況	・・・ P11
11、救命センター（北見赤十字病院）搬送状況	・・・ P11
12、特定行為実施状況	・・・ P12
13、救命講習実施状況	・・・ P13
14、市民による応急手当実施状況	・・・ P14
15、口頭指導による応急手当実施不可理由	・・・ P15
16、脳疾患・心疾患に対する出動状況	・・・ P16～17
17、ドクターカー出動状況	・・・ P18

※ 各統計の割合(%)は小数点第2位以下を四捨五入としている

1、救急搬送の出動状況（出動件数、搬送人員の推移）

平成 27 年中の救急出動件数は 5,296 件で、前年比 0.2% (13 件) 増加し、搬送人員は 4,836 人で前年比 0.3% (15 人) 増加している。また、平成 24 年からは 4 年連続で 5,000 件を超えている（図 1-1）（表 1-1）（表 1-2）。

図 1-1 救急件数の推移

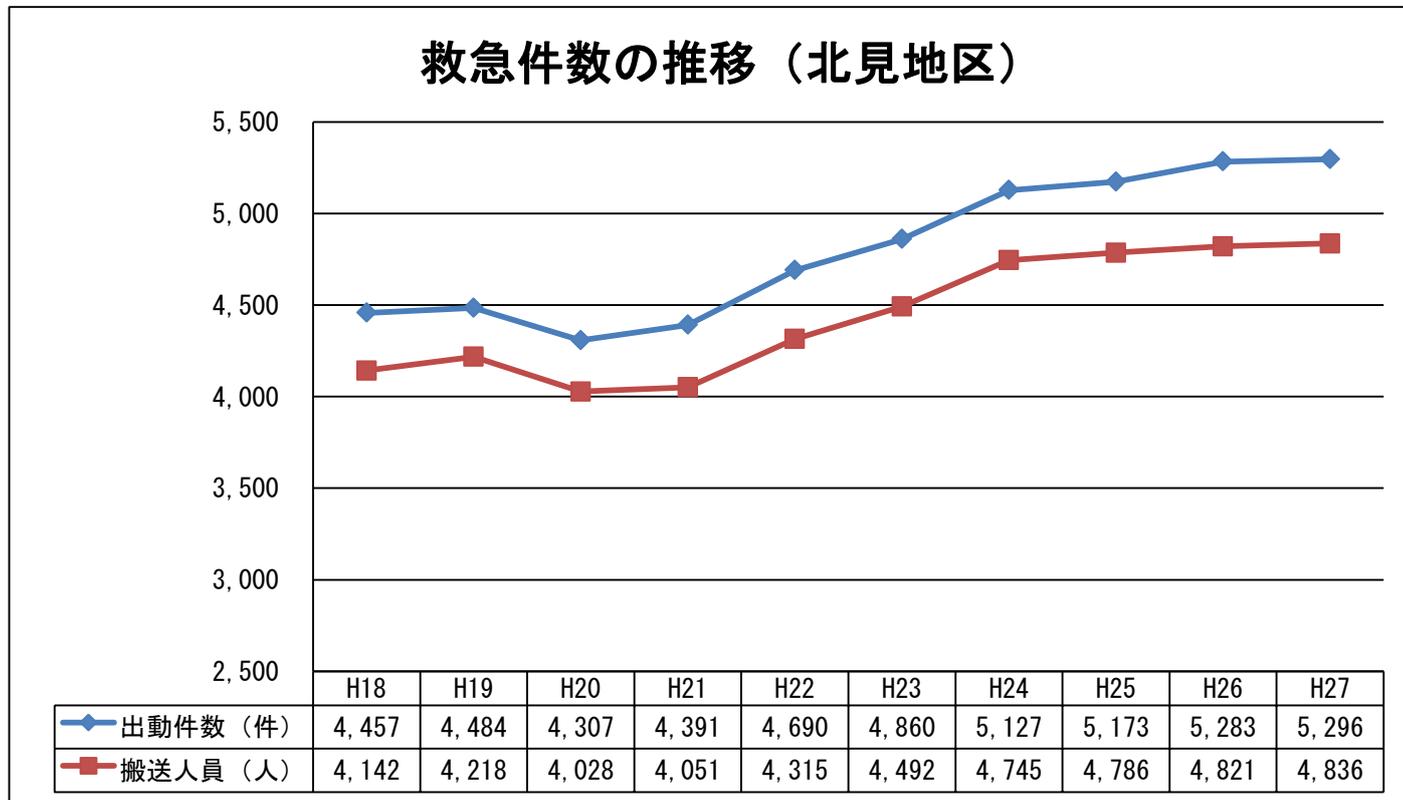


表 1-1 年別出動件数内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	組合合計	前年比
1990 (H2)	1,042	729	6	0					1,777	56	5	15	76	1,853	
1991 (H3)	1,002	617	9	0					1,628	65	2	101	168	1,796	-57 -3.1%
1992 (H4)	1,092	766	15	0					1,873	65	5	111	181	2,054	258 14.4%
1993 (H5)	1,232	691	15	0					1,938	74	0	102	176	2,114	60 2.9%
1994 (H6)	1,285	697	12	0					1,994	89	0	127	216	2,210	96 4.5%
1995 (H7)	1,304	853	20	0					2,177	81	0	135	216	2,393	183 8.3%
1996 (H8)	1,354	881	36	1					2,272	106	126	134	366	2,638	245 10.2%
1997 (H9)	1,438	900	26	3					2,367	88	154	169	411	2,778	140 5.3%
1998 (H10)	1,367	808	19	0					2,194	108	134	167	409	2,603	-175 -6.3%
1999 (H11)	1,466	928	31	0					2,425	101	159	163	423	2,848	245 9.4%
2000 (H12)	1,604	1,032	38	2					2,676	136	161	147	444	3,120	272 9.6%
2001 (H13)	1,564	1,029	34	2					2,629	127	157	190	474	3,103	-17 -0.5%
2002 (H14)	1,613	1,153	36	1					2,803	133	167	180	480	3,283	180 5.8%
2003 (H15)	1,783	1,203	150	0					3,136	156	163	183	502	3,638	355 10.8%
2004 (H16)	1,772	1,280	249	9					3,310	131	192	215	538	3,848	210 5.8%
2005 (H17)	1,643	1,220	310	3					3,176	159	231	209	599	3,775	-73 -1.9%
2006 (H18)	1,711	1,231	279	3	296	220	358		4,098	168		191	359	4,457	682 18.1%
2007 (H19)	1,848	1,202	22	2	470	199	364		4,107	163		214	377	4,484	27 0.6%
2008 (H20)	1,729	1,207	18	0	470	215	350		3,989	145		173	318	4,307	-177 -3.9%
2009 (H21)	1,831	1,243	10	4	438	181	320		4,027	159		205	364	4,391	84 2.0%
2010 (H22)	1,926	1,361	15	4	490	177	353		4,326	168		196	364	4,690	299 6.8%
2011 (H23)	1,919	1,404	16	8	554	185	356		4,442	210		208	418	4,860	170 3.6%
2012 (H24)	2,028	1,548	27	7	607	185	378		4,780	158		189	347	5,127	267 5.5%
2013 (H25)	2,085	1,500	28	8	579	191	419	12	4,822	146		205	351	5,173	46 0.9%
2014 (H26)	2,155	1,562	18	8	596	164	399	13	4,915	152		216	368	5,283	110 2.1%
2015 (H27)	1,818	1,444	654	7	363	197	426	21	4,930	160		206	366	5,296	13 0.2%

表 1-2 年別搬送人員内訳

	署	西	東	南	端野	常呂	留辺蘂	本部	北見合計	置戸	端野	訓子府	支署合計	合計	前年比
1990 (H2)	1,030	765	5	0					1,800	57	0	14	71	1,871	
1991 (H3)	949	625	6	0					1,580	66	0	111	177	1,757	-114 -6.1%
1992 (H4)	1,088	785	16	0					1,889	72	0	119	191	2,080	323 18.4%
1993 (H5)	1,234	716	15	0					1,965	82	0	110	192	2,157	77 3.7%
1994 (H6)	1,256	711	12	0					1,979	101	0	129	230	2,209	52 2.4%
1995 (H7)	1,284	848	23	0					2,155	82	0	147	229	2,384	175 7.9%
1996 (H8)	1,312	902	26	0					2,240	107	124	147	378	2,618	234 9.8%
1997 (H9)	1,366	904	19	0					2,289	81	159	173	413	2,702	84 3.2%
1998 (H10)	1,335	812	17	0					2,164	101	135	174	410	2,574	-128 -4.7%
1999 (H11)	1,427	926	30	0					2,383	107	165	160	432	2,815	241 9.4%
2000 (H12)	1,581	1,009	34	1					2,625	134	161	154	449	3,074	259 9.2%
2001 (H13)	1,559	1,037	38	0					2,634	135	160	188	483	3,117	43 1.4%
2002 (H14)	1,565	1,104	34	0					2,703	127	174	177	478	3,181	64 2.1%
2003 (H15)	1,657	1,166	145	0					2,968	143	157	174	474	3,442	261 8.2%
2004 (H16)	1,689	1,227	251	11					3,178	127	181	219	527	3,705	263 7.6%
2005 (H17)	1,530	1,149	311	3					2,993	146	204	196	546	3,539	-166 -4.5%
2006 (H18)	1,567	1,155	259	2	277	209	333		3,802	157		183	340	4,142	603 17.0%
2007 (H19)	1,692	1,155	9	2	454	201	335		3,848	159		211	370	4,218	76 1.8%
2008 (H20)	1,573	1,155	11	0	435	215	334		3,723	139		166	305	4,028	-190 -4.5%
2009 (H21)	1,666	1,153	3	3	411	168	296		3,700	150		201	351	4,051	23 0.6%
2010 (H22)	1,706	1,281	6	4	467	166	339		3,969	167		179	346	4,315	264 6.5%
2011 (H23)	1,750	1,304	7	8	510	180	332		4,091	202		199	401	4,492	177 4.1%
2012 (H24)	1,861	1,435	18	7	554	178	359		4,412	154		179	333	4,745	253 5.6%
2013 (H25)	1,884	1,438	16	7	530	187	393	7	4,462	140		184	324	4,786	41 0.9%
2014 (H26)	1,921	1,451	7	5	551	156	367	13	4,471	149		201	350	4,821	35 0.7%
2015 (H27)	1,633	1,324	595	6	335	179	406	15	4,493	154		189	343	4,836	15 0.3%

2、地区別救急隊出動件数

平成 27 年中の地区別救急隊出動件数をみると、北見は前年比 0.3%増の 4,930 件、置戸は前年比 5.3%増の 160 件、訓子府は前年比 4.6%減の 206 件となっている（表 2-1）。自治区別救急隊出動件数では、端野が前年比 39.1%減の 363 件となっているが、これは出動計画の見直しによるもので端野自治区の減少分が北見自治区に増加している。常呂は前年比 20.1%増の 197 件、留辺蘂は前年比 6.8%増の 426 件となっている（表 2-2）。また事故種別割合は、急病（61.5%）による救急要請が大半を占め、一般負傷（13.4%）、転院搬送（10.8%）、交通（6.6%）となっている（表 2-3）。

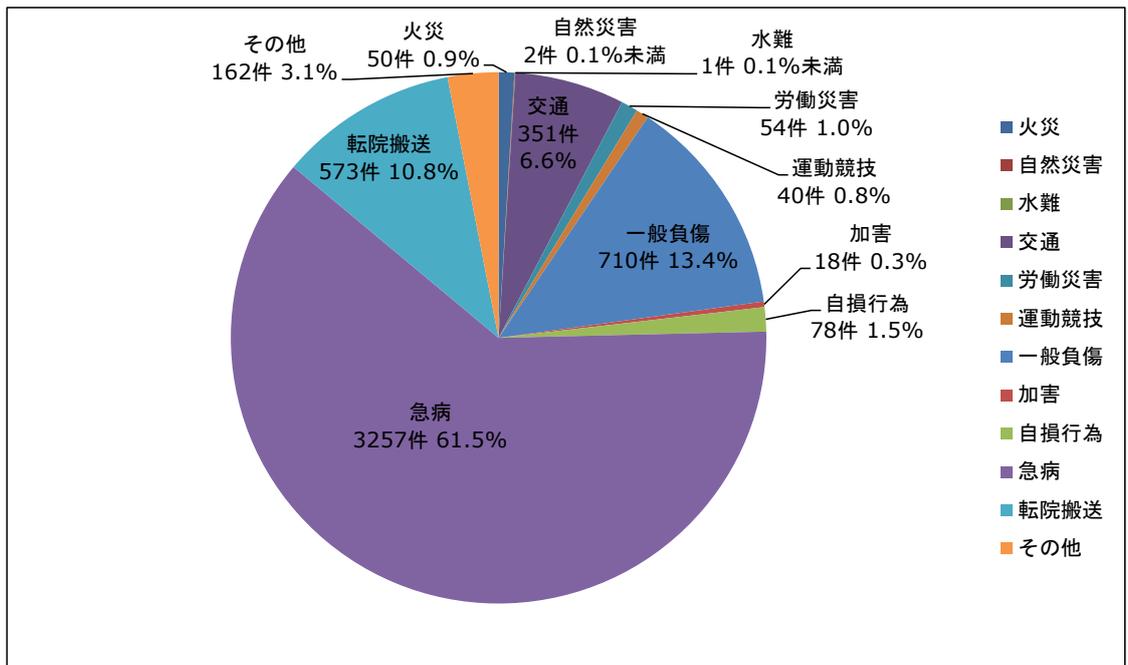
表 2-1 地区別救急隊出動件数

地区別	事故種別	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計	
		災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	機	の		
		害	災	難	通	害	技	傷	害	為	病	送	送	材	他		
合	出動件数	50	2	1	351	54	40	710	18	78	3,257	573	0	0	162	5,296	
	増減数	△ 7	2	0	45	△ 4	△ 12	37	△ 3	20	△ 114	36	0	0	13	13	
計	搬送人員	2	1	1	345	50	38	657	14	59	3,095	572	0	0	2	4,836	
	増減数	△ 5	1	0	17	△ 5	△ 14	28	△ 3	14	△ 55	39	0	0	△ 2	15	
北	出動件数	48	2	1	328	46	35	657	17	71	3,046	524	0	0	155	4,930	
	増減数	△ 3	2	0	47	△ 4	△ 15	26	△ 3	14	△ 89	27	0	0	13	15	
見	搬送人員	2	1	1	323	42	33	609	14	54	2,890	523	0	0	1	4,493	
	増減数	△ 5	1	0	26	△ 5	△ 17	19	△ 2	10	△ 32	30	0	0	△ 3	22	
置	出動件数	1	0	0	11	3	3	18	0	4	69	47	0	0	4	160	
	増減数	0	0	0	3	△ 4	3	3	0	3	△ 8	9	0	0	△ 1	8	
戸	搬送人員	0	0	0	14	3	3	18	0	3	66	47	0	0	0	154	
	増減数	0	0	0	2	△ 4	3	3	0	2	△ 10	9	0	0	0	5	
訓	出動件数	1	0	0	12	5	2	35	1	3	142	2	0	0	3	206	
	増減数	△ 4	0	0	△ 5	4	0	8	0	3	△ 17	0	0	0	1	△ 10	
子	搬送人員	0	0	0	8	5	2	30	0	2	139	2	0	0	1	189	
	増減数	0	0	0	△ 11	4	0	6	△ 1	2	△ 13	0	0	0	1	△ 12	
府																	

表 2-2 自治区別救急隊出動件数

北	出動件数	44	2	1	245	33	26	535	16	57	2,446	404	0	0	135	3,944
	増減数	1	2	1	38	2	△ 12	70	△ 1	6	36	18	0	0	27	188
	搬送人員	2	1	1	232	30	25	498	14	46	2,319	404	0	0	1	3,573
見	増減数	△ 4	1	1	13	2	△ 13	68	0	5	84	20	0	0	△ 1	176
	出動件数	1	0	0	51	6	4	49	0	5	187	51	0	0	9	363
	増減数	△ 1	0	0	5	△ 5	△ 2	△ 39	△ 1	3	△ 182	△ 7	0	0	△ 4	△ 233
端	搬送人員	0	0	0	55	5	4	42	0	4	174	51	0	0	0	335
	増減数	△ 1	0	0	11	△ 6	△ 2	△ 45	0	4	△ 171	△ 5	0	0	△ 1	△ 216
	出動件数	0	0	0	13	2	1	26	0	3	119	24	0	0	9	197
野	増減数	△ 2	0	△ 1	8	1	△ 1	3	△ 1	1	16	5	0	0	4	33
	搬送人員	0	0	0	11	2	1	24	0	2	116	23	0	0	0	179
	増減数	0	0	△ 1	5	1	△ 1	1	△ 1	0	15	4	0	0	0	23
呂	出動件数	3	0	0	19	5	4	47	1	6	294	45	0	0	2	426
	増減数	△ 1	0	0	△ 4	△ 2	0	△ 8	0	4	41	11	0	0	△ 14	27
	搬送人員	0	0	0	25	5	3	45	0	2	281	45	0	0	0	406
留	増減数	0	0	0	△ 3	△ 2	△ 1	△ 5	△ 1	1	40	11	0	0	△ 1	39
	出動件数	0	0	0	△ 3	△ 2	△ 1	△ 5	△ 1	1	40	11	0	0	△ 1	39

表 2-3 事故種別出動割合



3、救急搬送の状況（活動時間の推移）

平成 27 年中の現場到着までの平均時間は 6.8 分で、過去 10 年間で大きな変化は見られないが、病院収容までの平均時間は 30.5 分と 10 年間微増の傾向にある（図 3-1、表 3-1）。

図 3-1 活動時間の推移

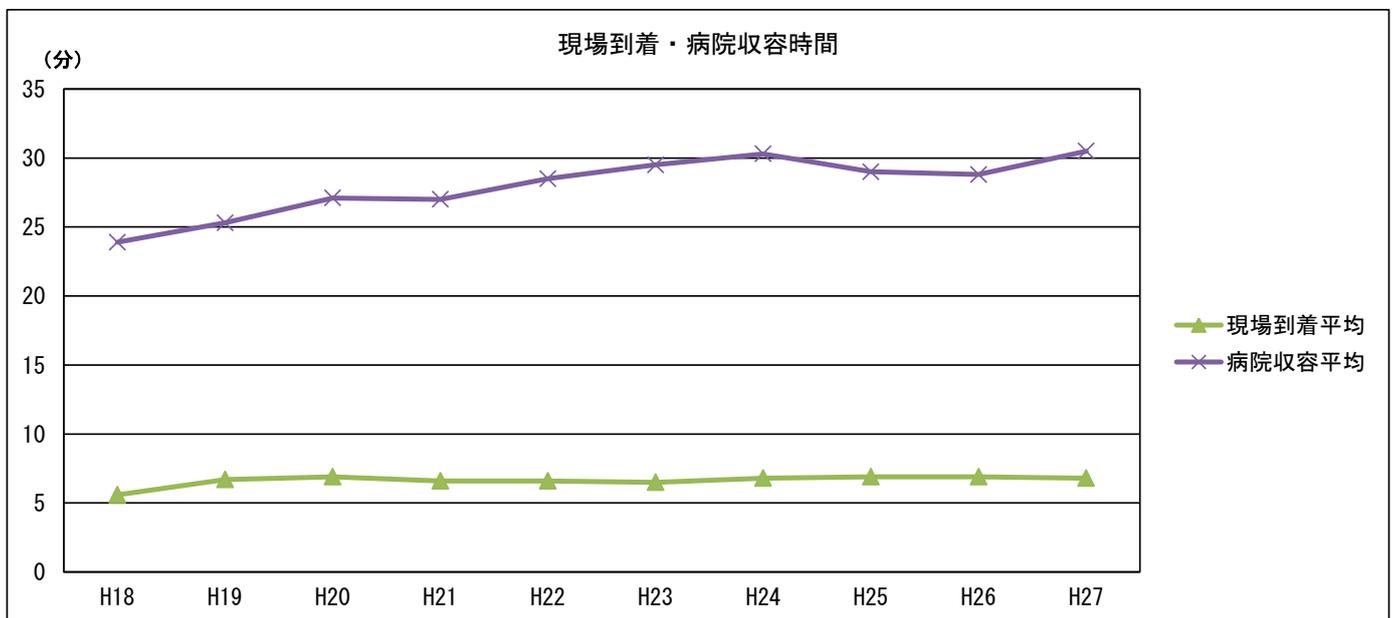


表 3-1 過去 5 年間の活動時間の推移(分)

項目 \ 年	H23	H24	H25	H26	H27
現場到着平均時間 (分)	6.5分	6.8分	6.9分	6.9分	6.8分
病院収容平均時間 (分)	29.5分	30.3分	29.0分	28.8分	30.5分

4、傷病者年齢区分別搬送人員状況

平成27年中の搬送人員4,836人に対し年齢区分における高齢者(65歳以上)の搬送人員は2,953人となっており全体の61.1%を占めている(表4-1)(図4-1)。

高齢化率の上昇と同様に高齢者の搬送人員は年々増加傾向にあり(表4-2)(図4-2)(図4-3)、また2回以上搬送されている高齢者の数は352人で(図4-3)延べ794件となっている。

表4-1 年齢区分別搬送種別状況

事故種別 年齢区分	火	自	水	交	労	運	一	加	自	急	転	医	資	そ	計
	災	然	難	通	働	動	般	害	損	病	院	師	機	の	
新生児	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	16	0	0	0	16
乳幼児	0	0	0	24	0	0	30	0	0	113	11	0	0	0	178
少年	0	0	0	33	0	26	20	0	3	73	10	0	0	1	166
成人	2	0	0	204	40	11	147	12	45	902	159	0	0	1	1,523
高齢者	0	1	1	84	10	1	460	2	11	2,007	376	0	0	0	2,953
計	2	1	1	345	50	38	657	14	59	3,095	572	0	0	2	4,836

【年齢分類】

- 新生児＝生後28日未満
- 乳幼児＝28日以上7歳未満
- 少年＝7歳以上18歳未満
- 成人＝18歳以上65歳未満
- 高齢者＝65歳以上

図4-1 傷病者年齢区分別搬送人員状況

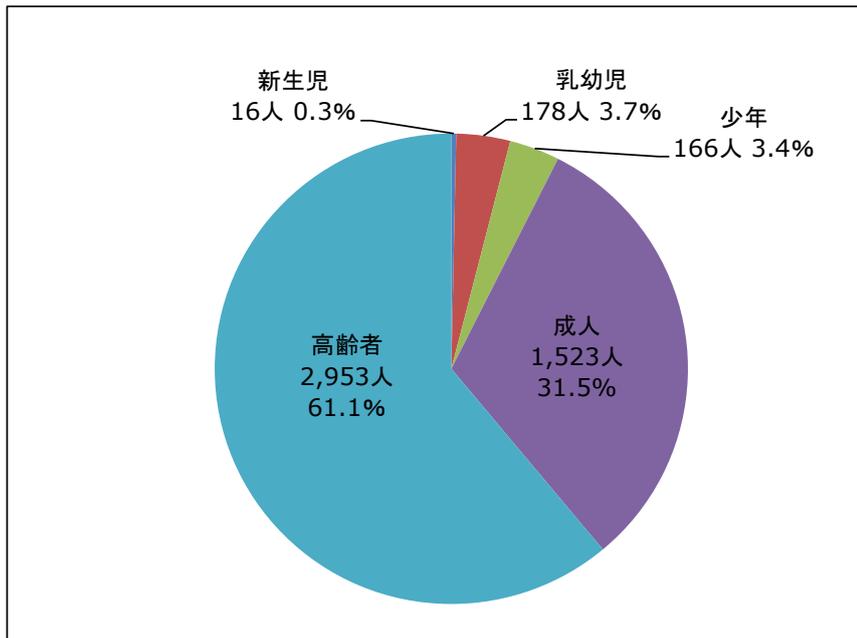
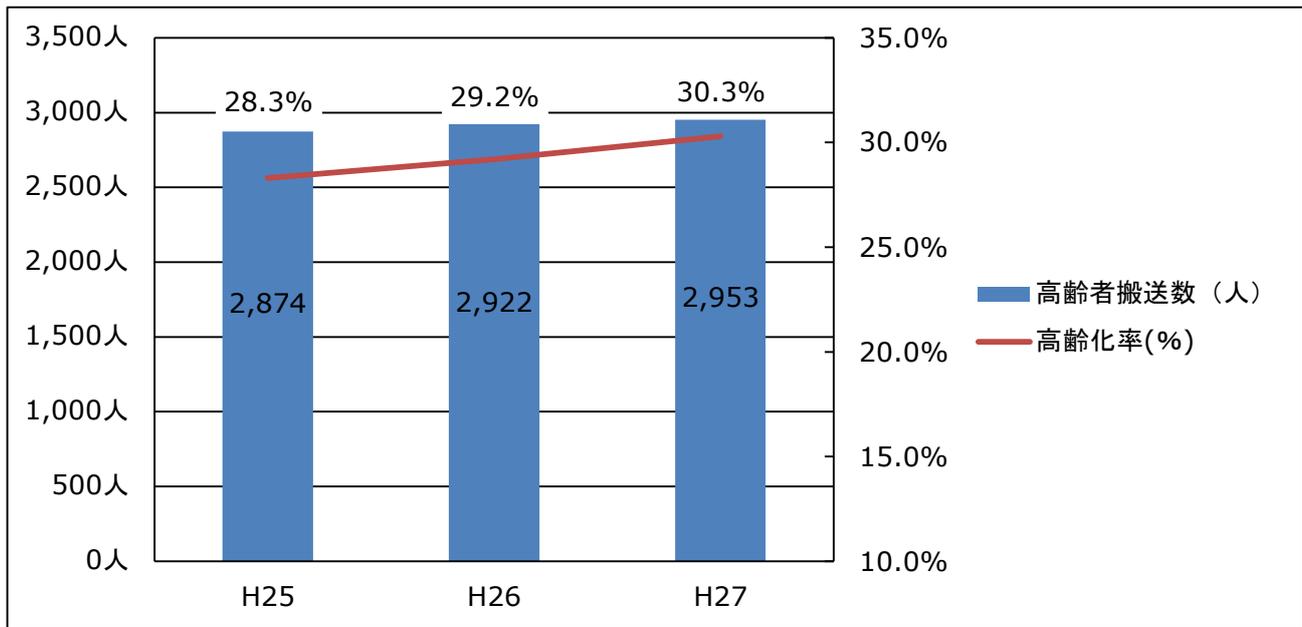


表4-2 高齢者搬送人員状況

項目	年	H23		H24		H25		H26		H27	
		搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数	搬送人員	増減数
急病		1,790	123	1,928	138	1,971	43	2,032	61	2,007	△ 25
一般		344	32	409	74	386	△ 23	427	41	460	33
交通		86	△ 4	90	4	103	13	79	△ 24	84	5
その他		374	41	335	△ 48	414	79	384	△ 30	402	18
計		2,594	192	2,762	168	2,874	112	2,922	48	2,953	31
うち老健施設から		369		351	△ 18	352	1	413	61	400	△ 13

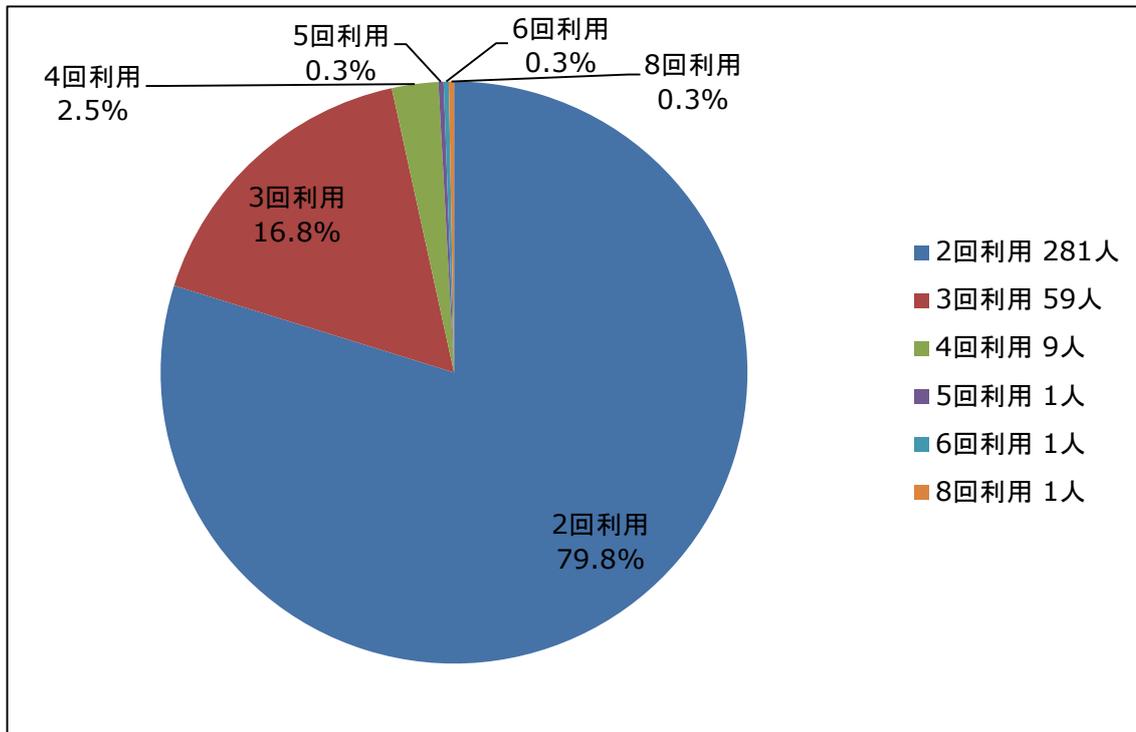
図 4-2 高齢者救急搬送の推移



※高齢者搬送者数は、延べ人数

※高齢化率は各年9月末の統計（北見市、置戸町、訓子府町から抜粋）

図 4-3 高齢者の複数回利用数



5、傷病者程度別搬送人員状況

平成27年中の搬送人員4,836人のうち、死亡、重症、中等症の傷病者の割合を合計すると58.0%、入院加療を必要としない軽症の傷病者の割合は42.0%となっている（図5-1、表5-1）。

図5-1 傷病者程度別内訳

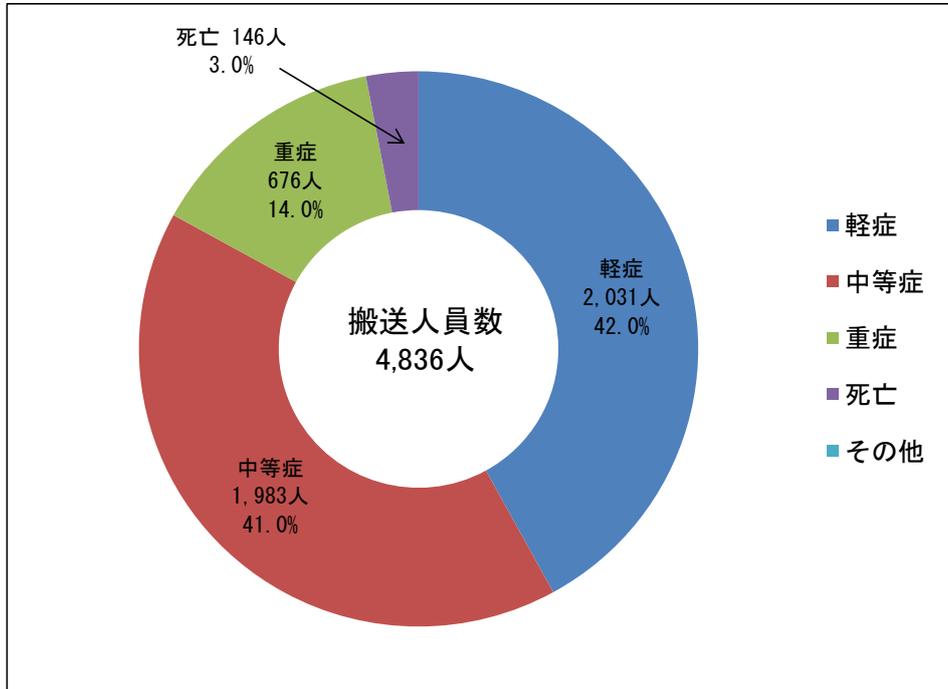


表5-1 傷病程度分類

事故種別 程度	事故種別															計	割合
	火災	自然災害	水難	交通	労働災害	運動	一般負傷	加害	自損行為	急病	転院搬送	医師搬送	資器材輸送	その他			
死亡	0	0	1	2	0	0	13	0	16	111	3	0	0	0	146	3.0%	
重症	0	0	0	18	10	1	48	0	9	446	144	0	0	0	676	14.0%	
中等症	1	1	0	75	21	15	291	1	19	1,199	358	0	0	2	1,983	41.0%	
軽症	1	0	0	250	19	22	305	13	15	1,339	67	0	0	0	2,031	42.0%	
その他	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0.0%	
計	2	1	1	345	50	38	657	14	59	3,095	572	0	0	2	4,836	100.0%	

※死亡とは、初診時において死亡が確認されたもの

※重症とは、傷病の程度が3週間の入院加療を必要とするもの

※中等症とは、傷病者の程度が重傷又は軽症以外のもの

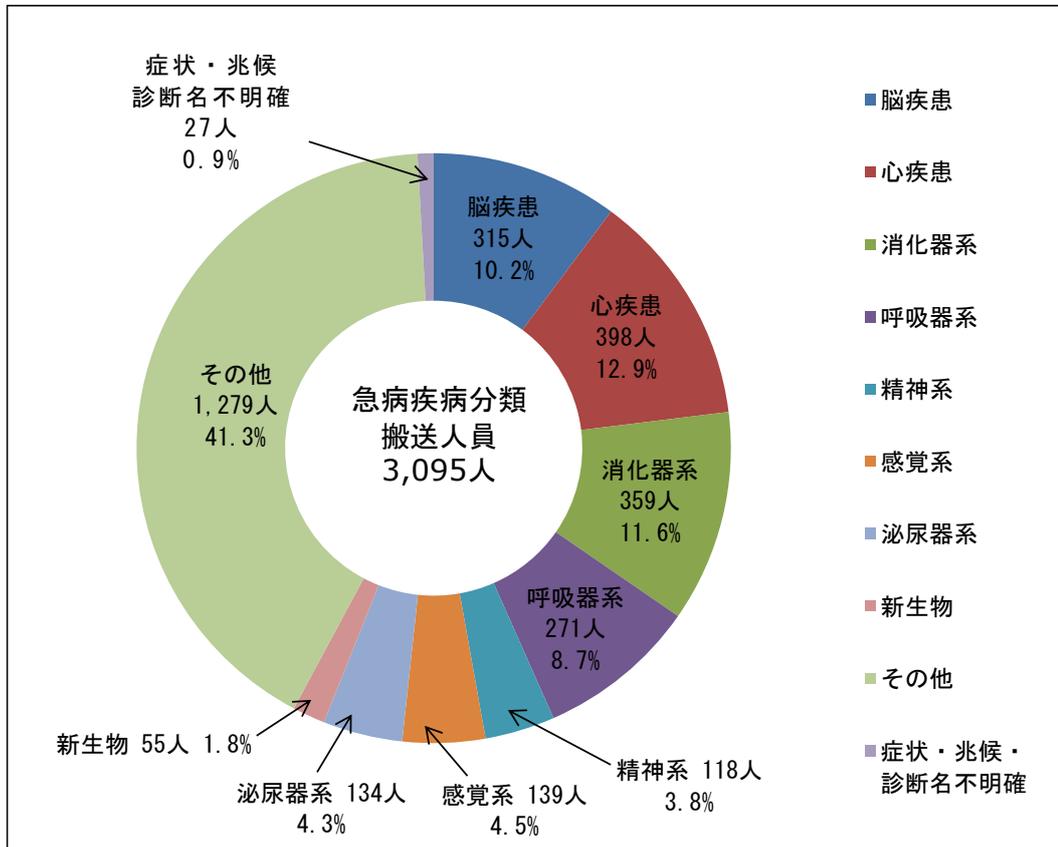
※軽症とは、傷病の程度が入院加療を必要としないもの

※その他とは、それ以外のもの

6、急病に係る疾病分類項目別搬送人員状況

平成27年中の急病の搬送人員内訳を世界保健機構（WHO）の国際疾病分類の項目別で見ると、脳疾患315人（10.2%）、心疾患398人（12.9%）、消化器系359人（11.6%）、呼吸器系271人（8.7%）となっている（図6-1）。

図6-1 急病患者疾病内訳



7、急病に係る疾病分類項目別重症割合

平成27年中の急病の疾病分類項目別に重症以上の割合をみると、脳疾患（44.1%）、心疾患（33.2%）、新生物（29.1%）の順となっている（表7-1）。

表7-1 疾病分類項目別重症割合

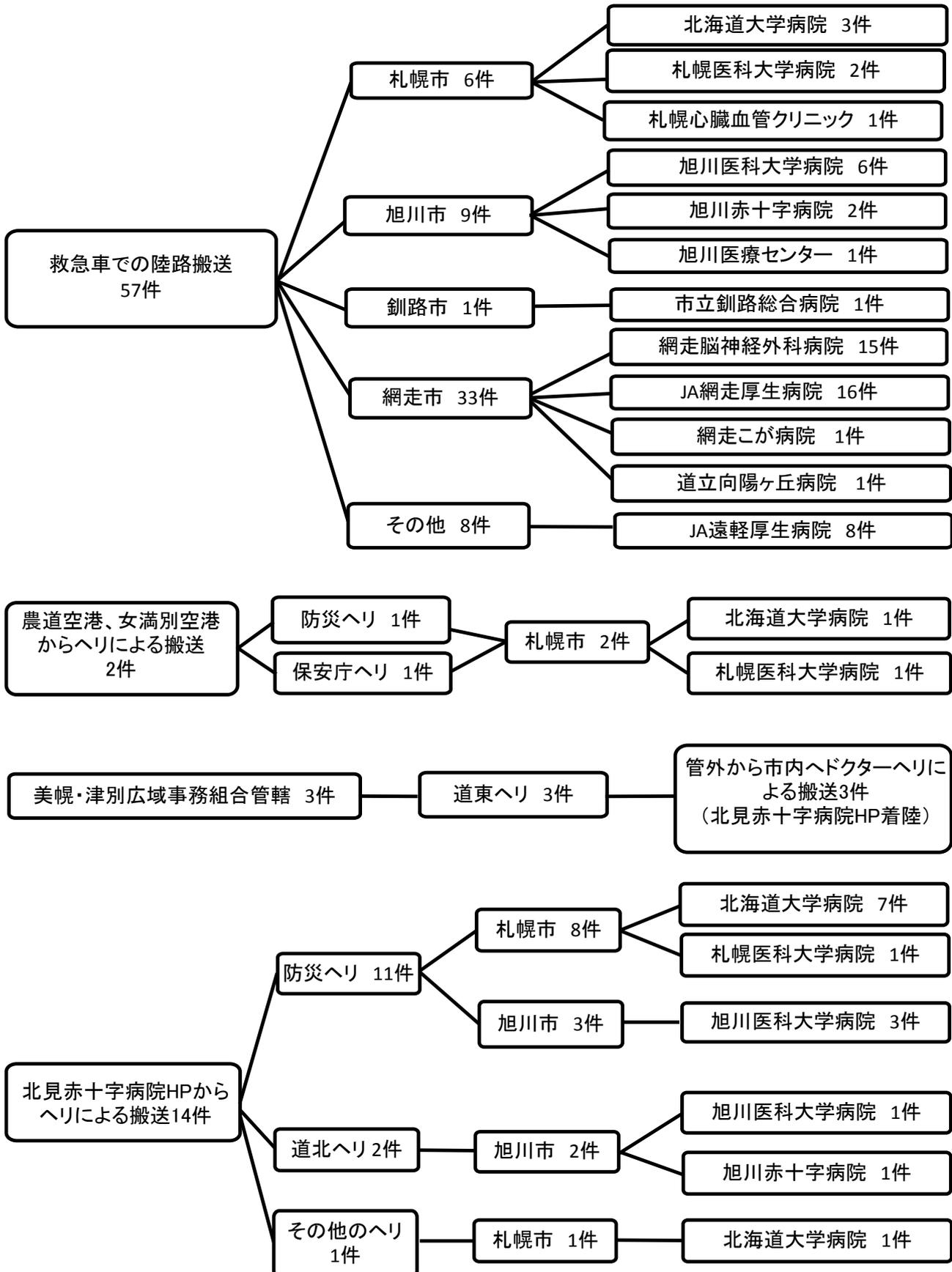
急病患者疾患内訳

種別	脳疾患	心疾患	消化器系	呼吸器系	精神系	感覚系	泌尿器系	新生物	その他	症状・徴候 診断名不明確	計
搬送人員	315	398	359	271	118	139	134	55	1,279	27	3,095
重症以上	139	132	71	70	7	7	15	16	96	4	557
割合	44.1%	33.2%	19.8%	25.8%	5.9%	5.0%	11.2%	29.1%	7.5%	14.8%	18.0%

8、管外搬送状況

管外搬送は、前年よりも10件増加している。地域別では、札幌市への搬送が3件増加、網走市への搬送が3件増加、旭川市への搬送が1件増加している。ヘリコプター等による航空機搬送は、前年よりも7件減少している（図8-1）。

図8-1 管外搬送状況の内訳



9、病院問合せ回数、收容拒否状況

平成 27 年中における病院問合せ回数で、1 回で決定したものは 4,025 件（83.2%）、問い合わせ回数 2 回以上で最多の 5 回を合わせると、811 件（16.8%）となっている（図 9-1）。

また、受入拒否件数は 1,093 件で受入の拒否理由として処置困難 507 件（46.4%）、ベッド満床 325 件（29.6%）となっている。特に軽症 597 件（54.6%）の傷病者の收容拒否が多くみられた（表 9-1）。

図 9-1 病院問合せ回数

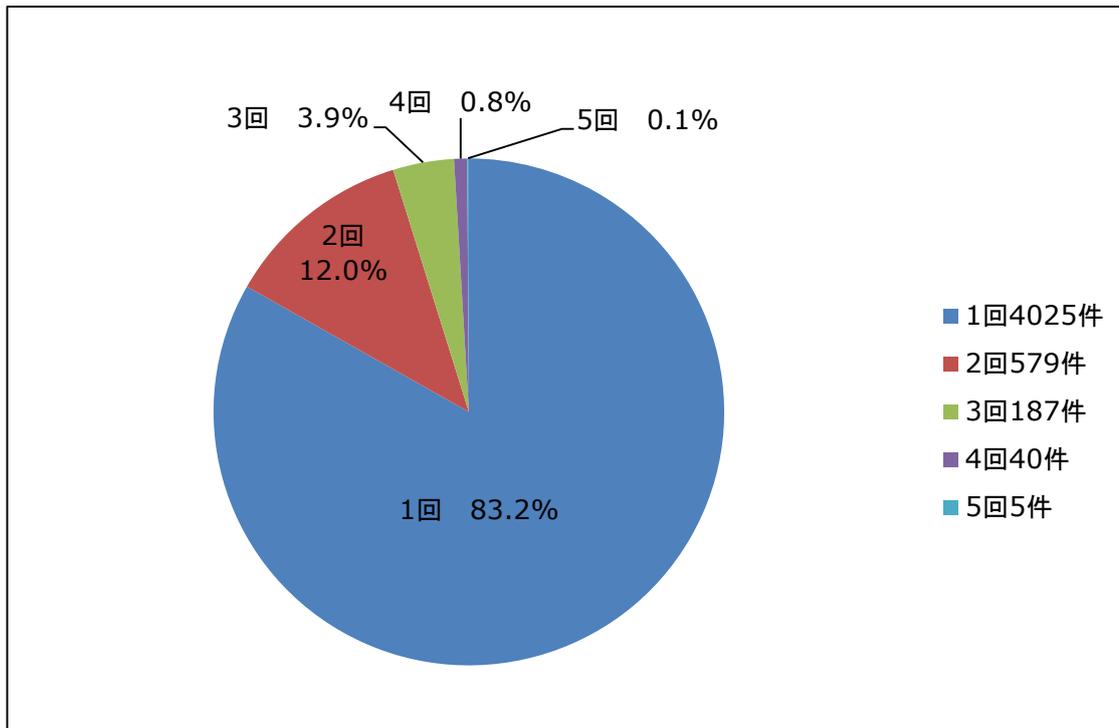


表 9-1 救急搬送における医療機関の收容拒否状況

名称	区分	手術中・患者対応中	ベッド満床	処置困難	専門外	医師不在	その他	合計
		件数	63	325	507	71	29	98
全体	割合	5.8%	29.7%	46.4%	6.5%	2.6%	9.0%	100.0%
重症以上	件数	5	33	54	4	3	9	108
	割合	0.5%	3.0%	4.9%	0.4%	0.3%	0.8%	9.9%
中等症	件数	21	152	159	20	7	29	388
	割合	1.9%	13.9%	14.6%	1.8%	0.6%	2.7%	35.5%
軽症	件数	37	140	294	47	19	60	597
	割合	3.4%	12.8%	26.9%	4.3%	1.7%	5.5%	54.6%

10、心肺停止患者搬送人員、社会復帰状況

平成 27 年中の心肺停止患者搬送数は 168 人と前年よりも 8 人増加した（図 10-1）。社会復帰者数は 11 人であった（表 10-1）。

また社会復帰者 11 人中、市民により応急手当が実施されていたものが 6 件あり、そのうち 1 件で除細動が実施されていた。

図 10-1

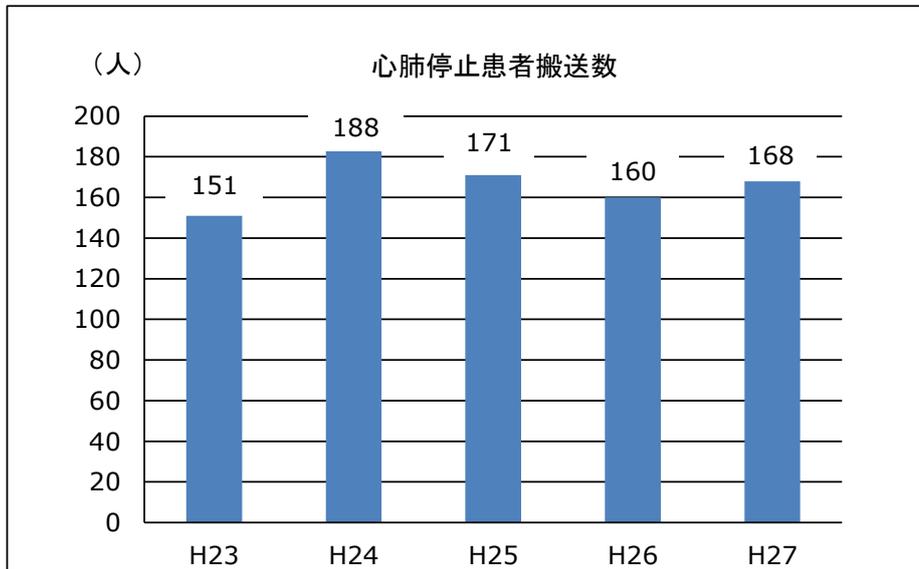


表 10-1

心肺停止患者 社会復帰率（過去5年間）

年	H23	H24	H25	H26	H27
心肺停止患者搬送数	151	188	171	160	168
社会復帰者数	4	6	3	5	11
社会復帰率	2.6%	3.2%	1.8%	3.1%	6.5%

※社会復帰者とは、脳機能カテゴリー（CPC）2 以下かつ全身機能カテゴリー（OPC）2 以下のもの

11、救命センター（北見赤十字病院）搬送状況

平成 27 年の救命センターへの搬送人員は前年と比べ 134 人減少している。また、CPA（心肺停止患者）の搬送は 168 人中 124 人と 73.8%が救命センターへ搬送されている（表 11-1）。

表 11-1

救命センター（北見赤十字病院）搬送人員

項目	事故種別	急病	一般	交通	労災	自損	加害	運動	転院	その他 (火災等)	計
		北見地区	搬送人員	3,095	657	345	50	59	14	38	572
	CPA搬送人員	129	19	2	0	17	0	0	0	1	168
救命センター (北見赤十字病院)	搬送人員	1,479	353	134	33	48	11	14	417	3	2,492
	搬送割合	47.8%	53.7%	38.8%	66.0%	81.4%	78.6%	36.8%	72.9%	50.0%	51.5%
	CPA搬送人員	94	13	2	0	14	0	0	0	1	124

12、特定行為実施状況

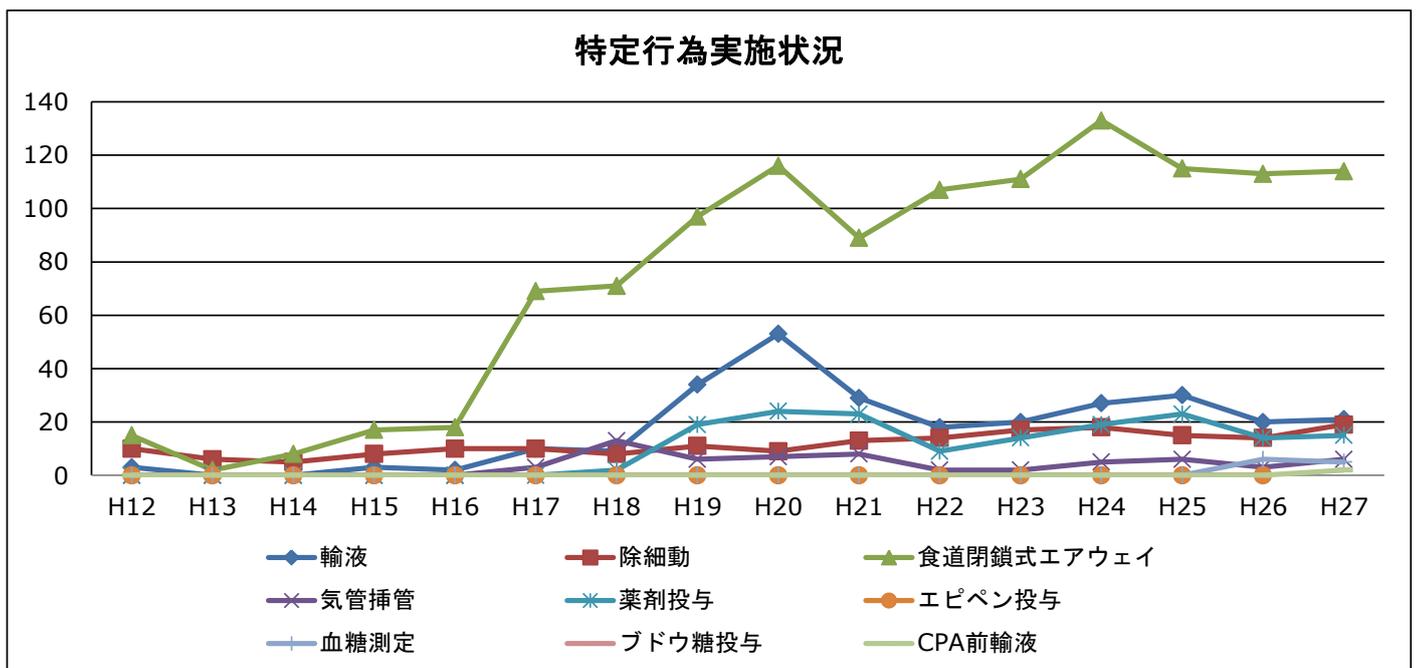
平成 27 年中の特定行為実施状況では、多くの項目が増加した。また平成 26 年 8 月から、心肺機能停止前の重度傷病者に対する静脈路確保（CPA 前輸液）、重度傷病者に対する血糖測定及び低血糖症例へのブドウ糖溶液の投与が運用開始され、平成 27 年はブドウ糖投与 1 件、CPA 前輸液 2 件を実施した（表 12-1）（図 12-1）。

表 12-1

特定行為実施状況（過去5年間）

項目 年	輸液 (うちCPA前)	除細動	食道閉鎖式 エアウェイ	気管挿管	薬剤投与	エピペン 投与	血糖測定	ブドウ糖 投与
H23	20	17	111	2	14	0		
H24	27	18	133	5	19	0		
H25	30	15	115	6	23	0		
H26	20(0)	14	113	3	14	0	6	0
H27	23(2)	19	114	6	15	0	5	1

図 12-1



13、救命講習実施状況

平成25年からの実施状況は、普通救命講習及び一般講習等合わせて、のべ11,138人の受講者となっている（表13-1）。

また、平成26年から試験的に導入した短時間講習（約1時間）は、平成27年より本格的に運用が開始となり、受講者数は1,061人で前年より972人増加した。

表13-1

応急手当普及啓発講習会実施状況（過去3年間）

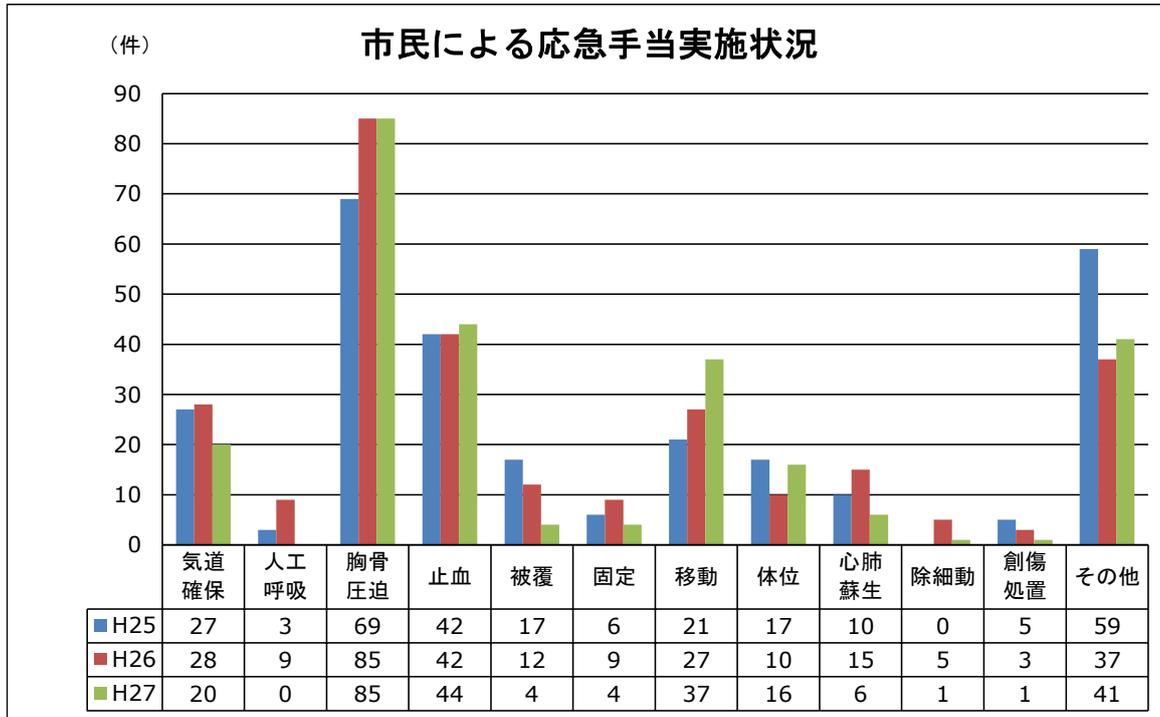
年	講習会		回数（回）	人員（人）	
平成25年	普通救命講習	普通Ⅰ	75	1,263	
		普通Ⅱ	0	0	
	一般講習	救命入門コース	学校関係	16	319
			職域関係	10	352
			一般	15	324
		応急手当講習	学校関係	10	403
			職域関係	13	407
			一般	23	459
	普及員講習		2	19	
	指導員講習		0	0	
	患者等搬送事業者		1	2	
計		165	3,548		
平成26年	普通救命講習	普通Ⅰ	82	1,476	
		普通Ⅱ	1	7	
	一般講習	救命入門コース	学校関係	4	78
			職域関係	21	439
			一般	4	60
		応急手当講習	学校関係	15	281
			職域関係	16	309
			一般	35	861
	短時間講習	学校関係	2	45	
		職域関係	3	44	
		一般	0	0	
	普及員講習		3	61	
	指導員講習		0	0	
患者等搬送事業者		0	0		
計		186	3,661		
平成27年	普通救命講習	普通Ⅰ	93	1,698	
		普通Ⅱ	0	0	
	一般講習	救命入門コース	学校関係	1	25
			職域関係	8	134
			一般	3	38
		応急手当講習	学校関係	3	34
			職域関係	24	418
			一般	25	441
	短時間講習	学校関係	19	441	
		職域関係	14	262	
		一般	10	358	
	普及員講習		6	80	
	指導員講習		0	0	
患者等搬送事業者		0	0		
計		206	3,929		

14、市民による応急手当実施状況

過去3年において実施された応急手当を見ると、胸骨圧迫が最も多く実施されており、気道確保の実施状況は昨年まで増加傾向であったが今年は減少した（図14-1）。

口頭指導と応急手当実施件数には、大きな開きが見られたが、胸骨圧迫の実施件数が85件と最も高かった（図14-2）。

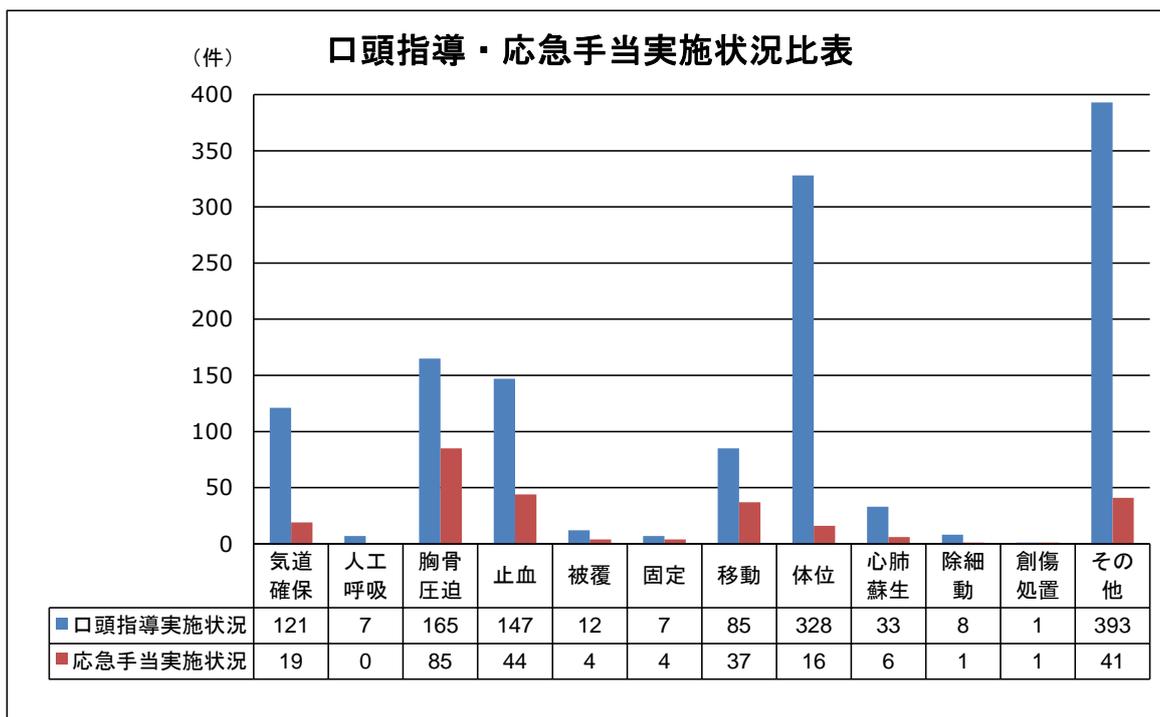
図14-1



※心肺蘇生は、人工呼吸と胸骨圧迫の両方を実施したもの

※その他は、上記以外の冷却などの処置

図14-2

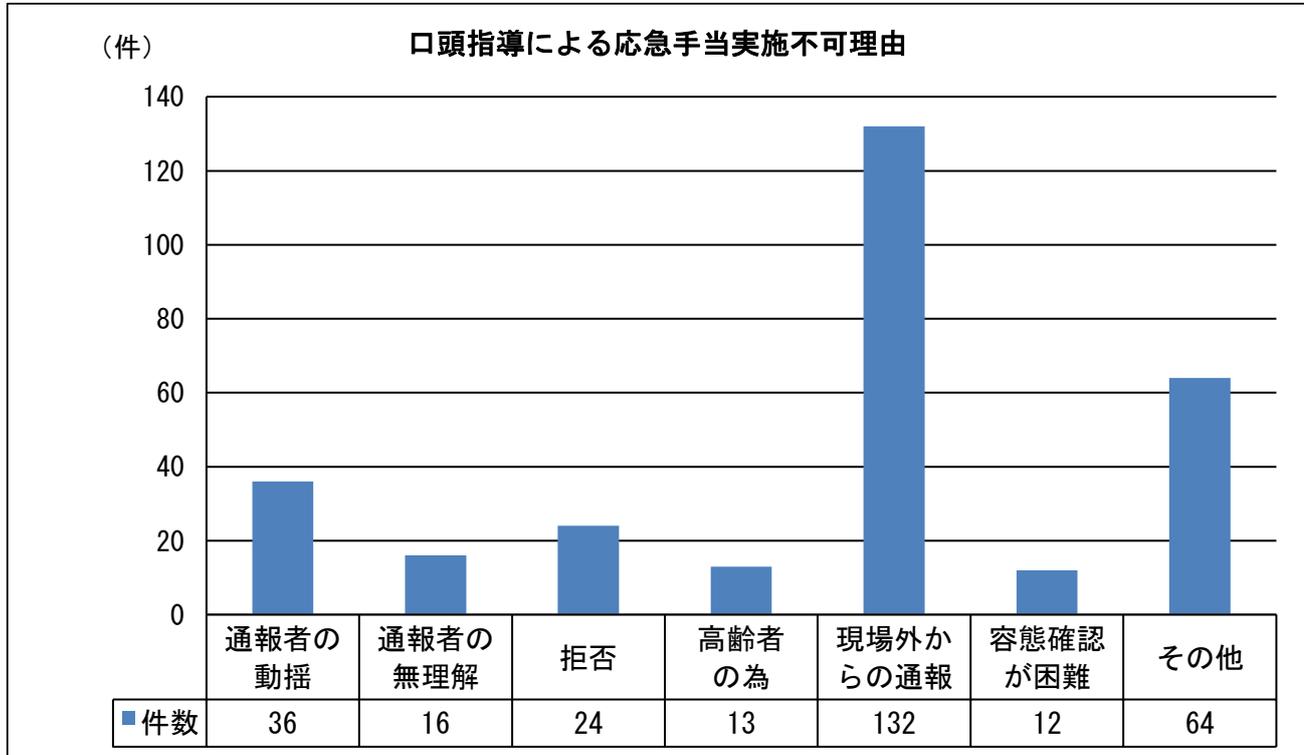


15、口頭指導による応急手当実施不可理由

口頭指導をしたが応急手当を実施できなかった理由として、現場外からの通報の132件が最も多く、その他64件、通報者の動揺36件と続いている（図15-1）。

また、その他の内訳としては症状回復、死亡徴候が見られる、電話を切られたなどがある。

図15-1



※すべての救急事案で聴取することは不可能なため、聴取可能だった事案のみ統計に反映している

※重複回答あり

16、脳疾患・心疾患に対する出動状況

平成 27 年中の急病件数に占める脳疾患の割合は 3,257 件中 315 件で 9.7%、心疾患の占める割合は 398 件で 12.2%であった（図 16-1）。

脳疾患の傷病程度重症以上の患者は 315 件中 139 件で 44.1%、心疾患の傷病程度重症以上の患者は 398 件中 132 件で 33.2%あった（図 16-2）。

図 16-1

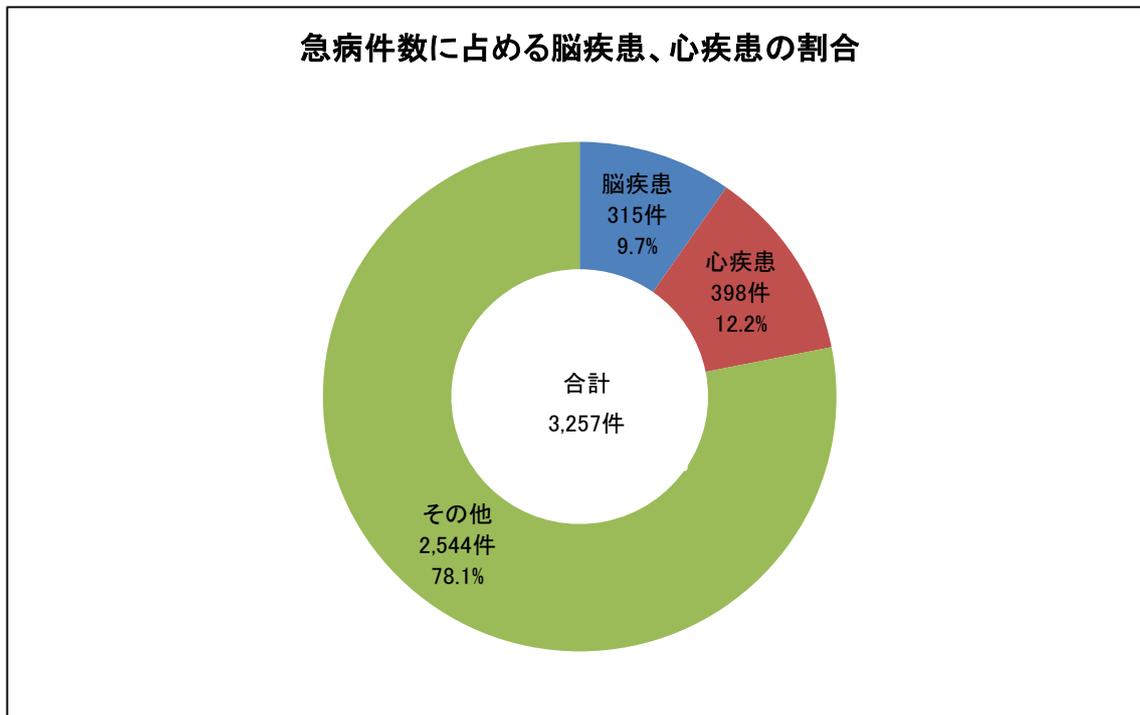
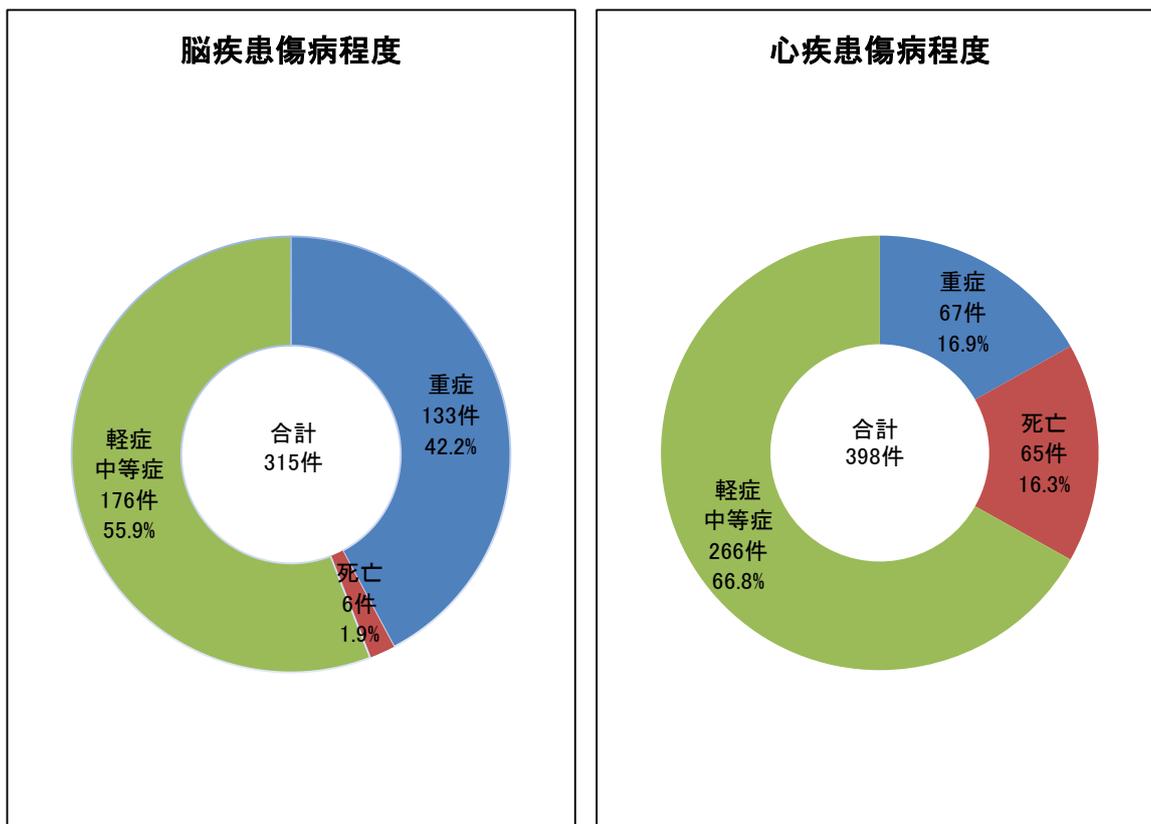
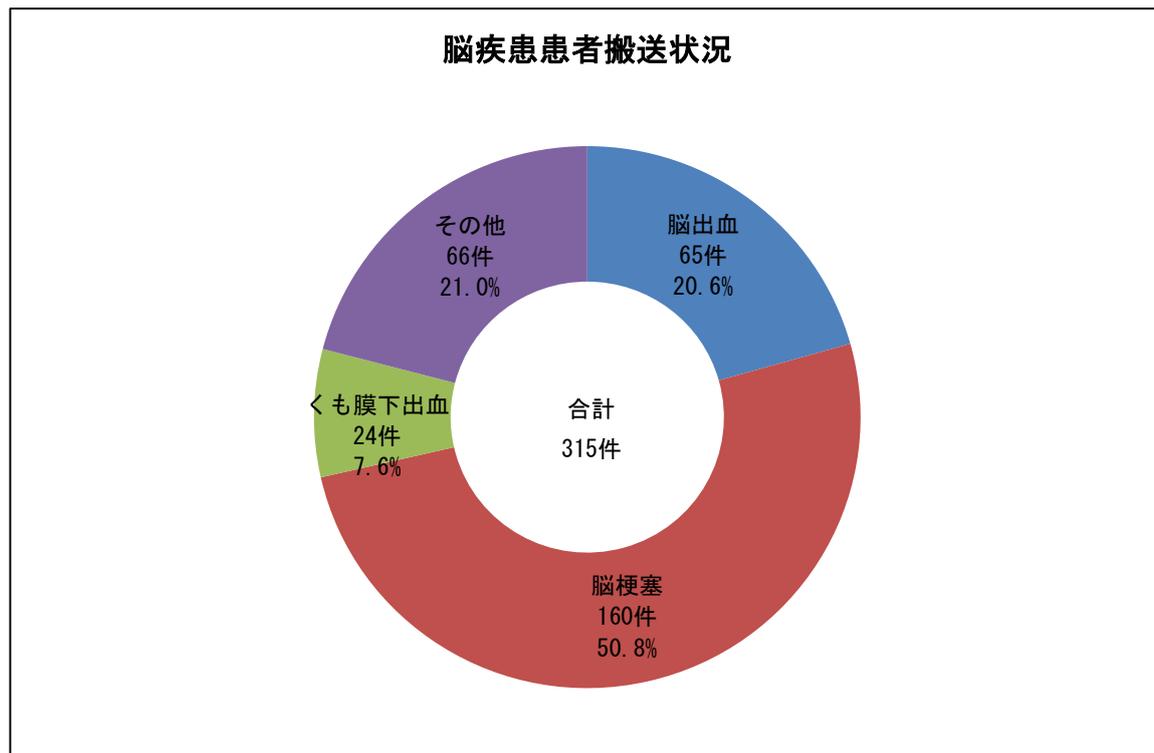


図 16-2



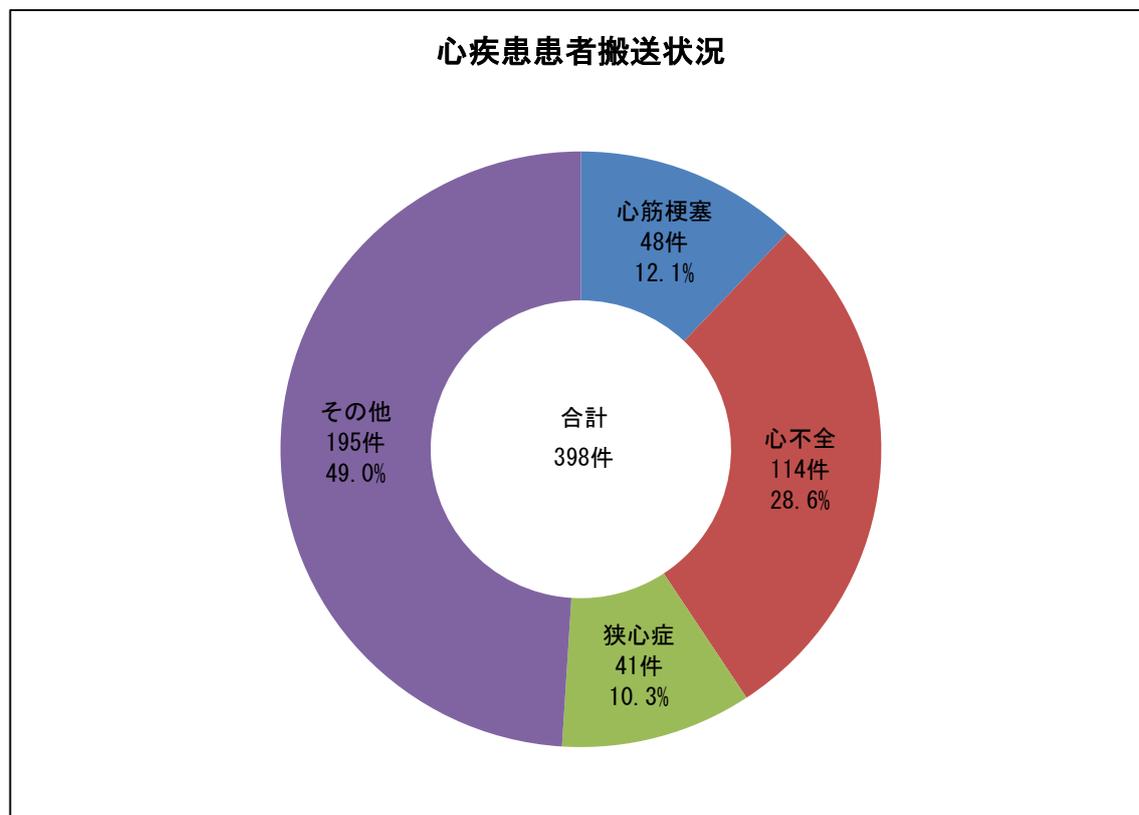
脳疾患患者の搬送状況として 315 件中、脳卒中が 249 件で 79.0%を占めた（図 16-3）。

図 16-3



心疾患患者の搬送状況として心不全、心筋梗塞、狭心症の順に多く、51.0%を占める（図 16-4）。

図 16-4



17、ドクターカー出動状況

平成 25 年 5 月よりドクターカーの運行が開始され、北見赤十字病院の保有する周産期救急ドクターカーを北見地区消防組合が協定により運行している。

病院前周産期救急診療及び重度傷病者に対する救急診療等が対象となり、医師・看護師及び救急救命士が乗車し早期に診療を開始することで救命率向上を図ることを目的としている。

平成 27 年中の運行状況は 21 件の出動要請があり、内訳は転院搬送に係るものが半数以上を占め、交通が 4 件、労働災害が 2 件、一般負傷が 1 件となった。